

コリント

第二

13

# 「神の恵み、愛、 交わりの道を」

コリント人への手紙Ⅱ 13章

最後の警告と挨拶

# アウトライン

## 0. イントロダクション

### I. 最後の警告 1～10節

### II. 最後の挨拶 11～13節

### III. まとめと適用

主の恵み、愛、交わりを  
味わうために



## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

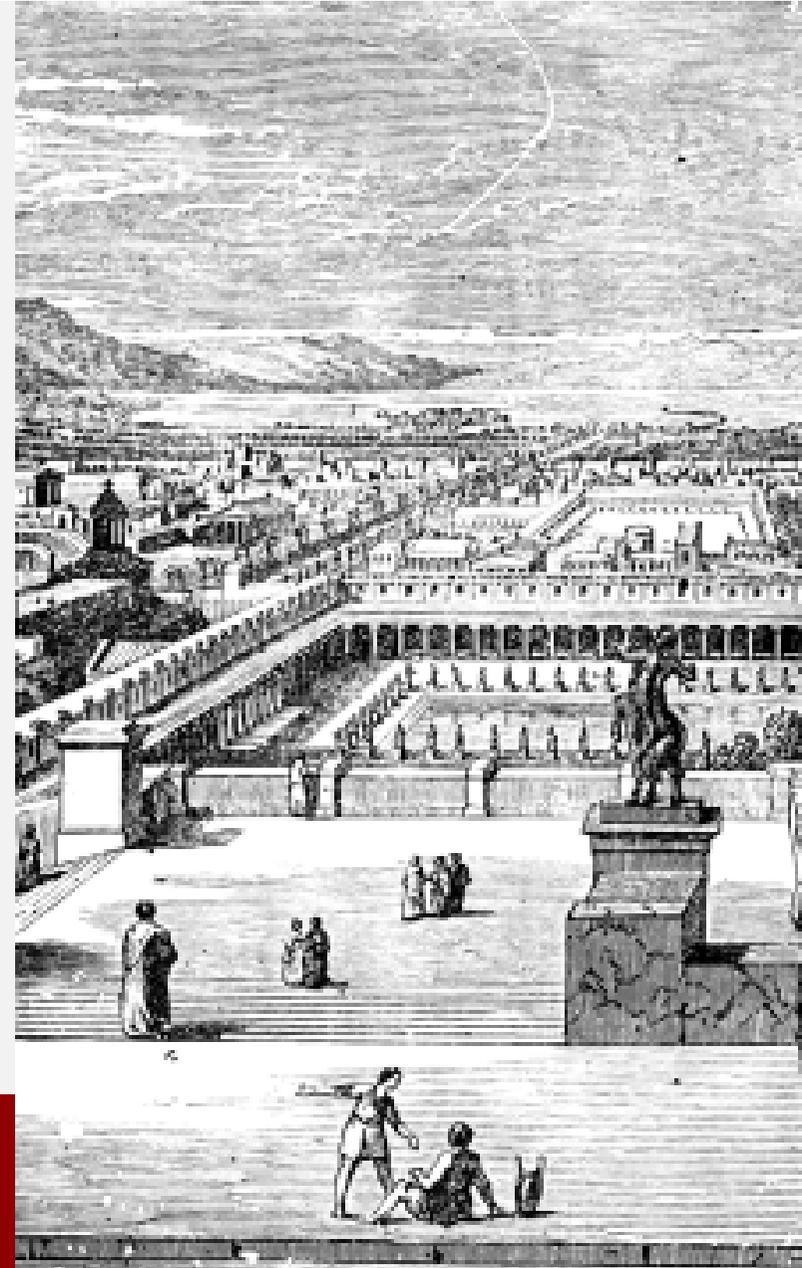
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (II コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



## 【コリントとコリント教会】

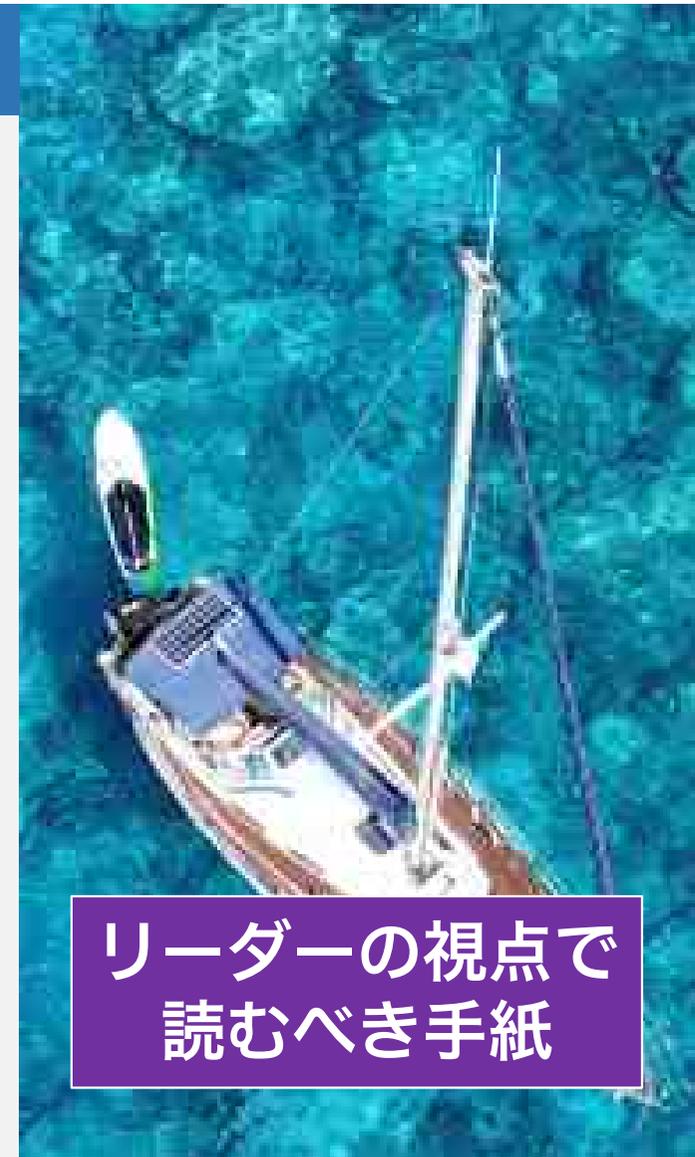
- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとしての私の信仰を成長させよう



**I. 最後の警告**      **Ⅱコリント13章1～10節**

## 【立証を求めて】 Ⅱコリ13:1

私があなたがたのところに行くのは、これで三度目です。二人または三人の証人の証言によって\*、すべてのことは立証されなければなりません。

\*律法でも規定(申命記19:15)

■数々の批判や、使徒性をめぐる論争に、  
決着をつけるべく、決意を伝えるパウロ。



## 【警告】 Ⅱコリ13:2

以前に罪を犯した人たちとほかの人たち全員に、私は二度目の滞在のとき、前もって言っておきました\*が、こうして離れている今も、あらかじめ言っておきます。今度そちらに行ったときには、容赦しません。

\*罪を指摘し、悔い改めを求めていた。

■あわれみ深い主は、十分過ぎる猶予を与えるが、裁きの時には容赦はない\*。

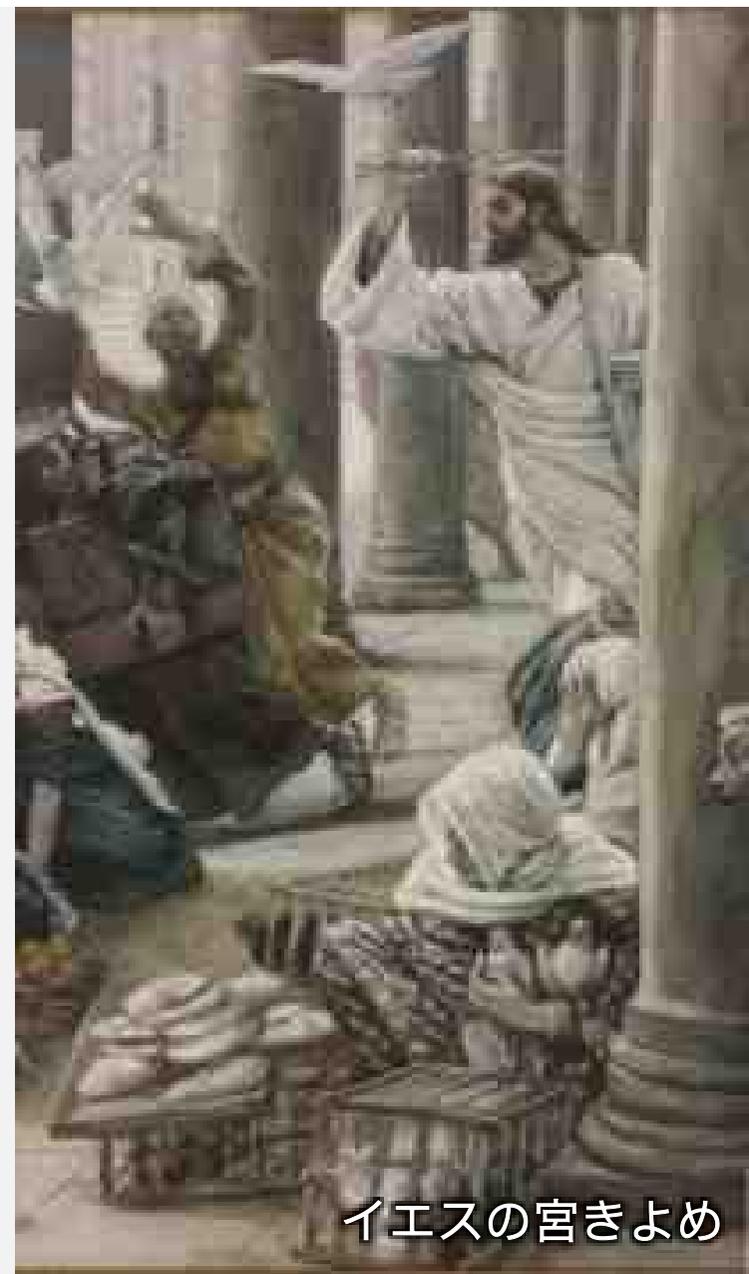
➔慎重に執り行われる教会の懲戒も悔い改めない者には厳しい結果に。



## 【神の義による証拠】 Ⅱコリ13:3

こう言うのは、**キリスト**が私によって語っておられるという証拠を、あなたがたが求めているからです。**キリスト**はあなたがたに対して弱い方ではなく、あなたがたの間において**力ある方**です。

- 赦しを強調し、罪を軽んじるのが **靈的幼子**  
神の義を疎かにしがちなのが **異邦人信者**  
→ **最も厳しい警告**は、主イエスが発した。
- 真実に主に仕え、御言葉を告げる者は、  
人への忬度なく、厳しい裁きの宣告も行う。



イエスの宮きよめ

## 【義なる神の力によって】 II コリ13:4

キリストは弱さのゆえに十字架につけられましたが、**神の力によって**生きておられます。私たちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対しては、**神の力によって**キリストとともに生きるのです。

### ■ 初臨のメシアは、受難のしもべ

…罪を負い、十字架で死なれた。

### ■ 再臨のメシアは、王の王、主の主、裁き主

…悪を裁き、地を支配される。

→ 信仰者は、メシアと共に世界を治める。



神の力によって  
偽善者に厳然と  
対峙するパウロ

## 【信仰者の自己吟味】 II コリ13:5~6

あなたがたは、信仰に生きているかどうか、自分自身を試し、吟味しなさい。それとも、あなたがたは自分自身のことを、自分のうちにイエス・キリストがおられることを、自覚していないのですか。あなたがたが**不適格な者\***なら別ですが。

しかし、私たちは**不適格\***でないことが、あなたがたに分かるように、私は望んでいます。

\*主の目に不適格。不信仰者。

■ 真の信仰者ならば、内住している聖霊の声を無視し続けられるわけがない。



本当に救われているのか？

## 【パウロの願い】 II コリ13:7

私たちは、あなたがたがどんな悪も行うことのないように、神に祈っています。それは、私たちが適格であることを明らかにしたいからではなく、私たちが不適格な者のように見えたとしても、あなたがたに善を行ってもらいたい\*からです。

■ 救いの確信を抱き、使命に生きるパウロ。  
不信仰者に何を言われようと関係ない。

➡\*コリントの人々が回心するかどうか!!

当然、本当に回心した人は行いを伴う。



## 【真理のためなら】 II コリ13:8~9

私たちは、真理に逆らっては何もすることができませんが、**真理のためなら**できます\*。

私たちは、自分は弱くても、**あなたがたが強ければ**\*喜びます。あなたがたが**完全な者**\*になること、このことも私たちは祈っています。

\*真理が与える力は、世に制限されない。

\*信仰に堅く立つ強さ。

\*神の目に完全である。キリストの律法に従う。

→悔い改めて、ふさわしい歩みをする事。



## 【建てるため】 II コリ13:10

そういうわけで、離れていてこれらのことを書いているのは、私が行ったときに、主が私に授けてくださった権威\*を用いて、厳しい処置をとらなくてもすむようになるためです。この権威\*が私に与えられたのは、建てるためであって、倒すためではありません。

\*罪を犯した者へ懲戒を下す権威。

→ 教会の懲戒の目的は、信仰者の成長。

■ 厳しい現実を理解しつつ、なお人々の悔い改めと変化を切に願うパウロ。





## Ⅱ. 最後の挨拶

Ⅱコリント13章11～13節

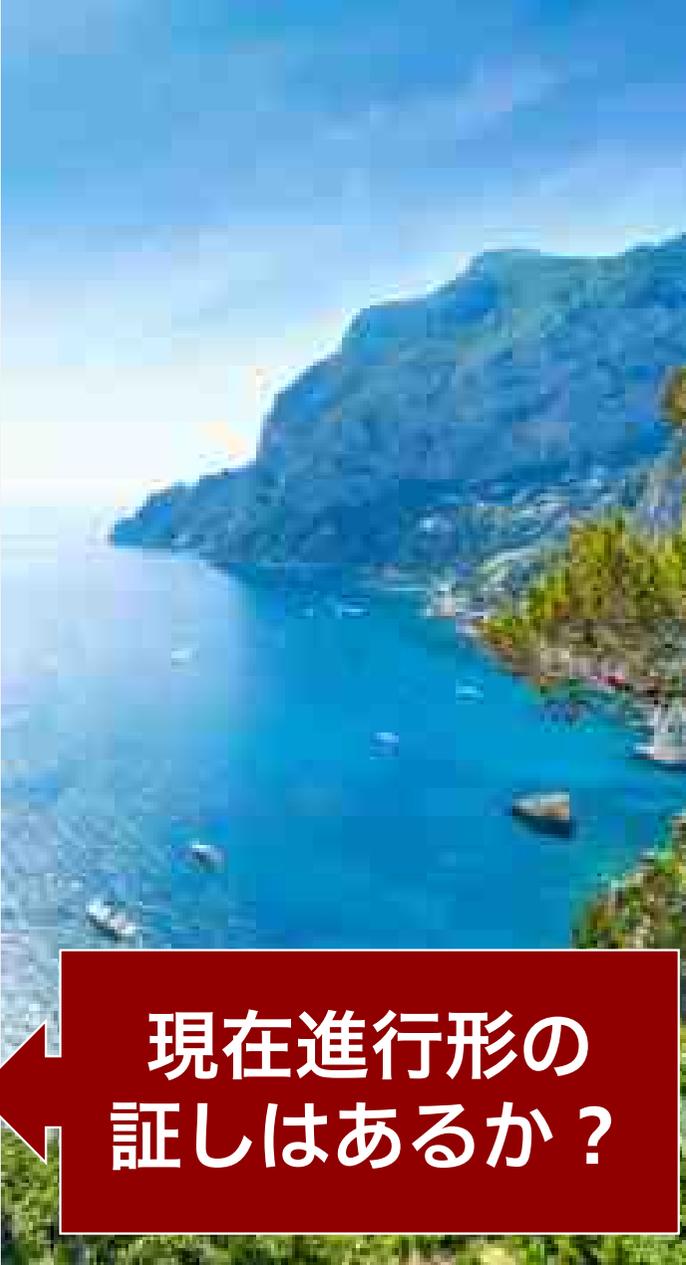
## 【励ましによる促し】 Ⅱ コリ13:11

最後に兄弟たち、喜びなさい。完全になりなさい。慰めを受けなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。

\*いずれも、福音を信じた結果。

➔ “神の目にはすでにになっている**栄化**”の姿に近づいていくのが、地上の**聖化**のあゆみ。

■ 悔い改めつつ、変えられつつ歩んでいるなら、あなたは確かに救われ、主が共におられる。



現在進行形の  
証しはあるか？

## 【聖なる口づけ】 II コリ13:12

聖なる口づけ\*をもって互いにあいさつを交わしなさい。すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています。

\*口づけ自体は、当時の一般的な慣習。

信仰者同士だからこそ、“聖なる口づけ”に「実は信仰がない」なら、ただの口づけ。

→問われるのは、やはり本質的な信仰。

■最後の挨拶まで、問いかけ続けるパウロ。

**真実か、偽りか、あらゆる瞬間に問われ続けている**



## 【結び】 Ⅱコリ13:13

主イエス・キリストの恵み、神の愛、  
聖霊の交わりが、あなたがたすべてと  
ともにありますように。

- 祝祷で最も頻繁に用いられる聖句。  
→ 信者だけに与えられた祝福。





### Ⅳ. まとめと適用

主の恵み、愛、交わりを味わうために

## パウロのその後の歩み

使徒20:1 ~3(エペソでの)騒ぎが収まると、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げ、マケドニアに向けて出発した。

そして、その地方を通り、多くのことばをもって弟子たちを励まし、ギリシアに来て、そこで三か月を過ごした\*。そして、シリアに向けて船出しようとしていたときに、パウロに対するユダヤ人の陰謀があったため、彼はマケドニアを通過して帰ることにした。

\*コリントに3ヶ月滞在。出発時に危機が!!



## パウロの歩みが教えてくれること

- 以降のコリントの記録はない。パウロは再訪し、3ヶ月滞在し、出発時には、命の危険にさらされたが、献金を手にエルサレムへ。
- 悔い改め、献金を集め、パウロを待っていた兄弟姉妹がいた。一方で、最後までパウロと敵対し、神に背き通した者たちもいた。
- 喜ばしい知らせと、嘆くほかない悲しい現実には、直面しただろう。それでもパウロは、大切な献金を手に、エルサレムを目指した。

**ただ主に仕え、遣わされて行く。パウロの生き方はそれだけだ**

## コリント人への手紙とは？

- 最大のテーマは、**クリスチャンの信仰の成長**。
- 霊的幼子のまま、罪に鈍感で、自由をはき違えていた人々に、パウロは、基本的教理を繰り返し確認し、悔い改めを強く促した。
- 罪に気づき、悔い改め、変えられ、**成長した人々**がいた。  
一方で、主に背き通し、最後までパウロに**敵対した人々**も。
- 信仰の成熟をもたらすのは、罪の認識の深まり、日々の悔い改め。

**ただ主に信頼し、聖霊に委ねれば、恵みによって変えられる**

## 私は、あなたは、変えられていっているのか？

■ 主にある喜び、完全、慰め、一致、平和。

→ 主に従い歩んできた結果として、実感させられる**実**。

■ 実だけを言葉で100万回唱えても、あなたが変わることはない。

突きつけられた罪を認め、悔い改めて、変えられて行っているか。

いつまでも挑戦せず、変化を拒む人は、本当に救われているのか？

■ どうしようもない自分の罪に、それでも向き合おうとする力。

それこそが、力ある主イエスに依り頼む者に与えられる聖霊の力だ。

## 各々の地域教会こそ、常に、靈的戦いの最前線と心しよう

- 最も厳しい靈的戦いは、自分、家族、地域教会の内部にこそある。麦と毒麦が入り混ざる地域教会に、靈的戦いが絶えることはない。
- 真実か、偽りか。その人の結ぶ実によってのみ、見分けられる。気づかされた罪を認め、打ち砕かれ、悔い改めて変えられているか。
- クリスチャンの歩みには、別れもつきまとうことを覚えよう。真実に歩もうとするほどに、不誠実な人との隔たりは拡大していく。

**パウロのたどった道は、すべての信仰者が歩まざるを得ない道**

## ★ 歩みの中で、救いの確信を深めよう ★

- 主に会っても、受け入れず、従わないままの人がいる。  
救いの証ししかないのは、出会い止まりなのではないか？
- 神の愛を知る人は、失敗を恐れない。与えることを惜しまない。  
山ほど失敗したペテロこそ、リーダーにふさわしい信仰者だった。
- 向き合うべき私の課題は、内住する聖霊が教えてくれている。  
恐れず、踏み出そう。打ち砕かれたら、悔い改めればよかった。

**踏み出そう。恐れるな。愛と平和の神が共におられる。**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために<sup>じゅうじか し</sup>十字架で死に、

②墓に<sup>はか ほうむ</sup>葬られ、

③三日目に<sup>みっかめ ふっかつ</sup>復活した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

<sup>しゅ あた</sup>主が与えられた<sup>すく</sup>救いの、<sup>かくしん ふか</sup>確信を深めていくことができますように。

<sup>ちよくめん わたし かぞく ちいききょうかい かだい</sup>直面する私、<sup>たいじ</sup>家族、<sup>ちから あた</sup>地域教会の課題に、対峙する力を与えてください。

<sup>う くだ</sup>打ち砕かれては、<sup>く あらた</sup>悔い改め、<sup>ふたた しゅ た かせ</sup>再び主に立ち返ることができますように。

<sup>わたし</sup>私のすべては、<sup>えいえん しゅ</sup>永遠に主よ、あなたのものですから、

<sup>よ おそ</sup>世を恐れず、<sup>しんらい</sup>ただあなたを信頼して、<sup>あゆ つづ</sup>歩み続ける者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」